

巻頭写真 花粉化石の単体標本 (Single-grain mounts of fossil pollen)

第10回植生史研究会シンポジウムでは花粉化石標本の保存と公開についての話題提供がなかった。それは、それなりに雑多な問題を抱えていながらも大型植物化石や木材化石の標本の作成と保管がある程度ルールに乗っているのに対して、花粉化石の場合には、同等に比較できる標本の作成・保管のルールがそもそも無いに等しいというのが現状であったからである。花粉化石の標本については、海外では古くからテキストでもたびたび触れられてきたし、筆者も何度か標本作成・保管の意義と実践例を示してきたが(辻, 1975, 1986), 今日でも標本作成・保管はあまり普及していないようである。本号がシンポジウム「標本の保存と公開」の特集号であることもあって、あえて花粉化石標本とその保存について写真を提示しておきたい。近い将来、標本番号が付された花粉化石標本をもって記載され、あるいは比較のために論文に掲載された分類群の標本にアクセスできることを期待したい。

花粉化石の標本はいくつもの種類があるが、花粉化石群を含むもの堆積物、堆積物から花粉化石群を抽出したままの花粉化石群標本(集合標本)、単一の花粉化石のみを含む単体標本が一般的である。この中で、標本個体の指定ができ、指定された標本間の比較検討が許されるのは、言うまでもなく単体標本である。写真1はESN. ST 2966の標本番号が付された単体標本とそれを登録したカードである。写真2は単体標本を番号順に標本ケースに収納したものである。この登録カードは産地ごとにまとめられているため記述が簡単であるが、産地・層位を詳細に、また文献も記述すべきであろう。単体標本は通常のスライドガラスを用い、円形のカバーガラス中央に一個の花粉化石を含むグリセロール・ゼリーが周囲のパラフィンに封じ込まれている。両者は熱で溶けるので、プレパラートを温めて花粉化石を異なる方向から観察することができる。

日本では縄文時代以降の栽培植物やその可能性のある植物群の花粉化石がたびたび報告されているが、標本の提示がほとんど無い。系統的にこれまで報告された花粉化石の単体標本を作成し、記載は当然のこととして、総合的な比較研究へと展開できれば、花粉化石研究は飛躍的な発展を遂げることになるだろう。

文献 辻 誠一郎. 1975. 化石花粉のための単体標本について. 地学研究, 26: 253-257.
辻 誠一郎. 1986. 日本の第四紀植生史研究の諸問題. 植生史研究, No.1: 3-18.

(辻 誠一郎 Sei-ichiro Tsuji)

